

産業界と教育現場の連携を推進する コーディネーターに関する研究会 (第1回)

令和8年1月15日

商務・サービスグループ サービス政策課



第1回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:15 開会挨拶・委員紹介（15分）
2. 10:15-10:20 研究会の趣旨説明（5分）
3. 10:20-10:30 事務局説明（10分）
4. 10:30-11:00 ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
5. 11:00-11:55 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
6. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

研究会名簿 ※五十音順

座長	・ 細田 眞由美	兵庫教育大学 客員教授
委員	・ 岩渕 琢磨	岩渕薬品株式会社 代表取締役社長、ファミリービジネスネットワークジャパン 理事
	・ 岩本 悠	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事
	・ 鍵本 芳明	岡山大学学術研究院教育学域 教授
	・ 工藤 和志	東京都葛飾区立青葉中学校 校長 ※全日本中学校長会よりご推薦
	・ 斎藤 祐馬	デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社 代表取締役社長 ※経済同友会よりご推薦
	・ 繁吉 健志	山口県教育委員会 教育長 ※全国都道府県教育長協議会よりご推薦
	・ 利根川 裕太	特定非営利活動法人みんなのコード 理事会長、横浜美術大学 客員教授
	・ 中原 健聡	認定特定非営利活動法人Teach For Japan 代表理事・CEO
	・ 宮本 泰俊	日本生命保険相互会社 財務企画部担当部長 兼 責任投融資推進室室長
	・ 室井 照平	福島県会津若松市 市長
オブザーバー	・ 山内 清行	日本商工会議所 企画調査部長
	・ -	内閣府 地方創生推進事務局
	・ -	総務省 地域力創造グループ 自立応援課
	・ -	文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課

ゲストスピーカー ※五十音順

ゲストスピーカー

- 井上 浄 株式会社リバネス 代表取締役社長CCO
- 石田 芳生 岡山県高梁市 市長
- 高橋 洋平 神奈川県鎌倉市教育委員会 教育長

第1回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:15 開会挨拶・委員紹介（15分）
- 2. 10:15-10:20 研究会の趣旨説明（5分）**
3. 10:20-10:30 事務局説明（10分）
4. 10:30-11:00 ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
5. 11:00-11:55 意見交換（55分）※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
6. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

本研究会の目的

多様な学びの充実に向けた「共助」を推進するため、

- どのような施策が有効か
- また、その施策を実行するためにどのような道筋が望ましいか

について方針を取りまとめる。

研究会の各回の位置づけ

第1回： 共助推進のための施策

共助推進のためにどのような施策が有効か議論を行う

主な意見交換内容

共助推進のために、

1. どのような施策が有効か
2. コーディネーターは有効な施策となりうるか

第2回： 共助推進のための手法

有効な施策を実行するためにどのような道筋を描くべきか議論を行う

主な意見交換内容

検討中

第3回研究会（総括・まとめ）

第1・2回研究会での議論を踏まえて成果物を取りまとめる

主な意見交換内容

検討中

- 1月15日（木）10:00-12:00
- オンライン

- 2月中（予定）
- オンライン

- 3月中（予定）
- ハイブリッド（対面&オンライン）

社会の変化に伴い、「多様な学び」の場の創出が重視される傾向

社会構造の変化

工業化 社会

沢山作って沢山売る「モノ」を所持

- ・ 大量発生・大量消費
- ・ 縦割り
- ・ 自前主義
- ・ 新卒一括採用・年功序列



確実性

- ・ 注意深さ・ミスがないこと
- ・ 責任感・まじめさ
- ・ 基本機能（読み・書き・計算など）

DX時代 Society 5.0

新しいサービスの誕生
他分野・業種連携データに大きな価値

- ・ 新たな価値創造
- ・ レイヤー構造
- ・ 分野・業界を超えた連携
- ・ 人材の流動化



革新性

- ・ 問題発見力、課題解決力
- ・ 常識や前提にとらわれずゼロからイチを生み出す力

学びの在り方の変化

一律・一斉の指導方法



知識を蓄積するための勉強



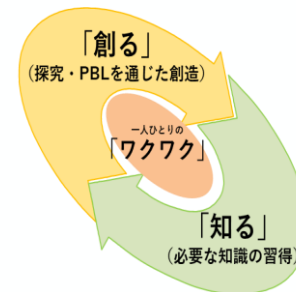
個別最適化

子どもたち一人ひとりの
興味関心に応じた
個別最適化された学び

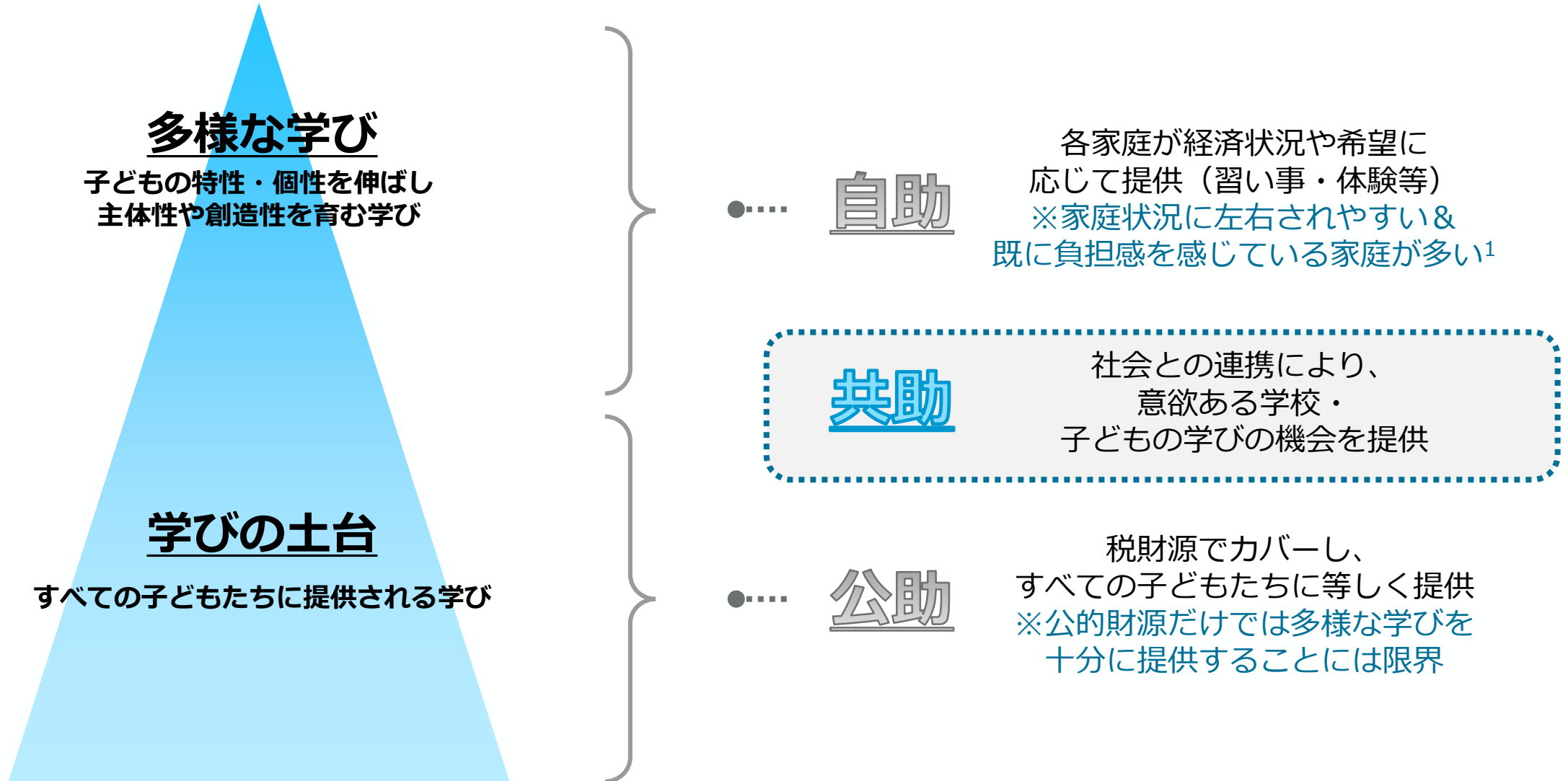


探究化

価値を「創る」ために
「知る」学びへの転換



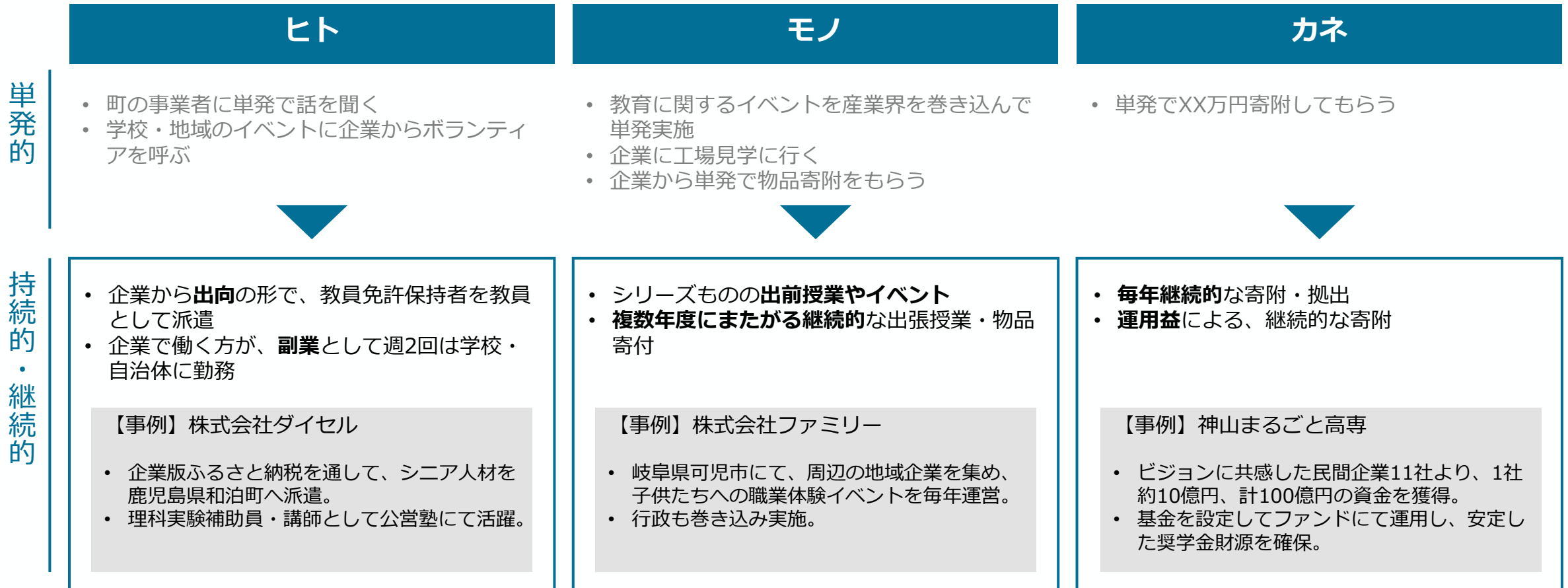
多様な学びの場を充実させるためには「共助」が必要



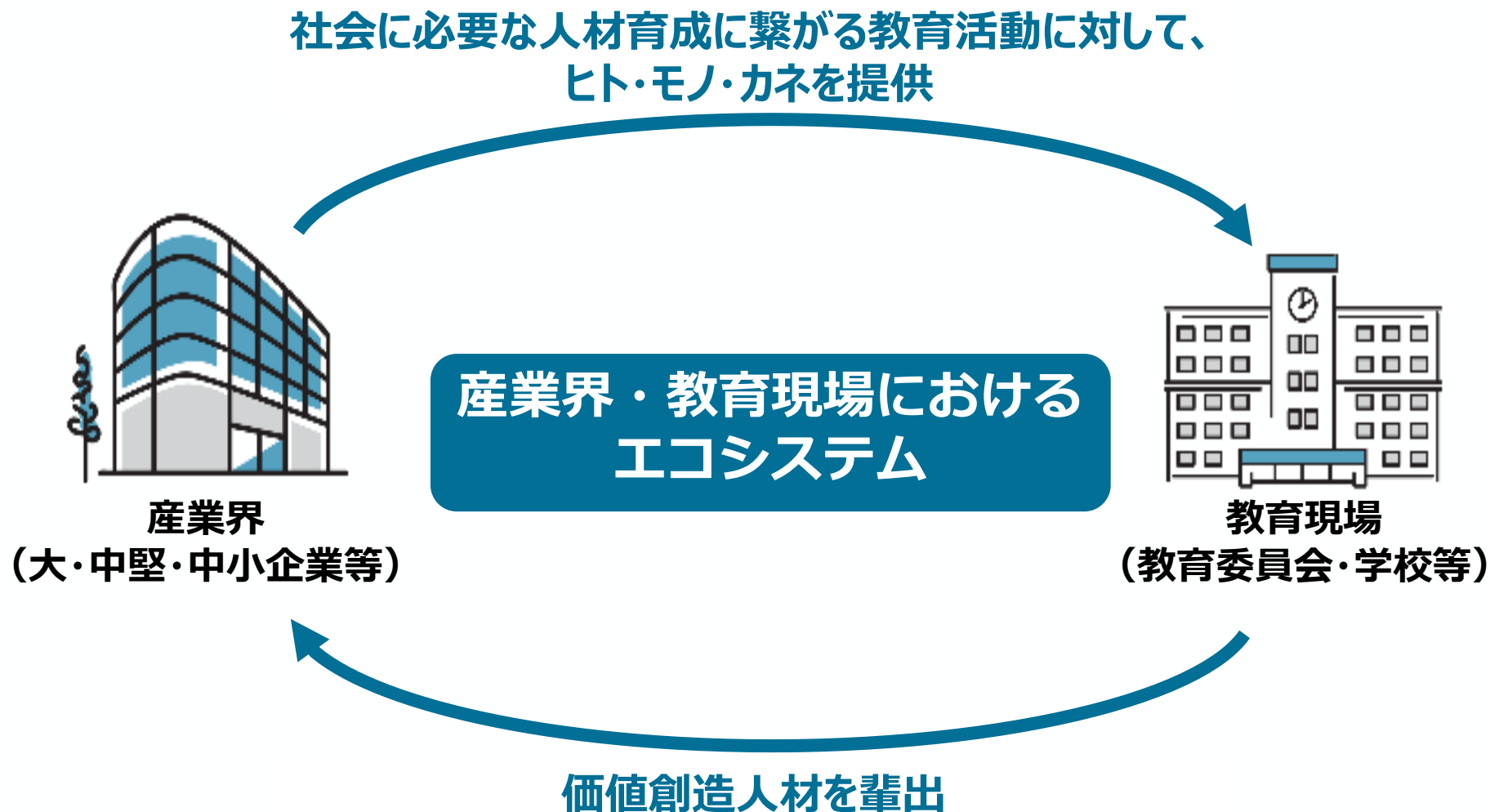
¹ ソニー生命保険株式会社「子どもの教育資金に関する調査 2025」（2025年3月13日）によると、保護者の6割以上が教育費負担を既に「重い」と感じている。

「共助」の価値最大化には、持続性・継続性を追求することが重要

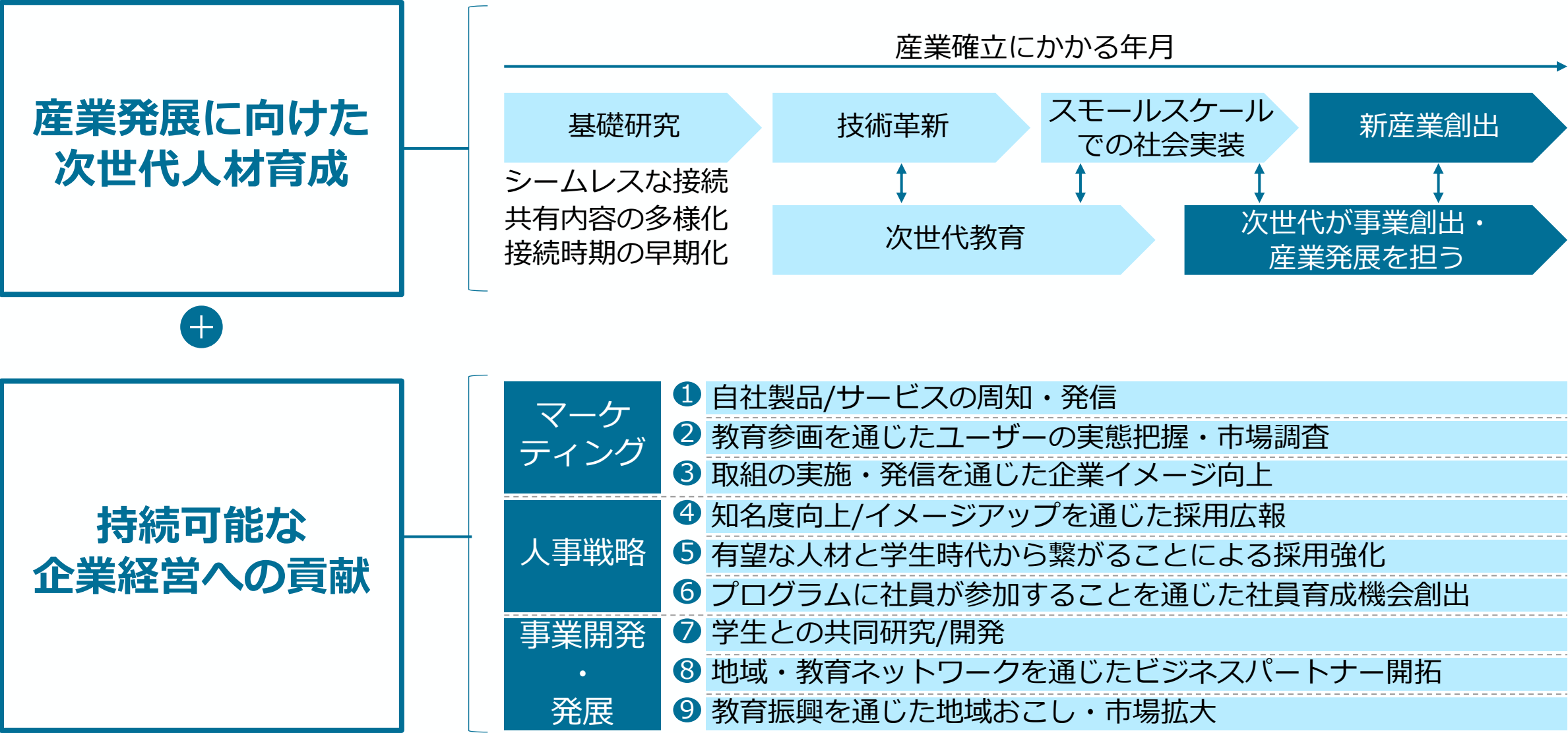
- 産業界と教育現場が連携し、単発の取組だけではなく、持続性・継続性のある学びを推進。
- 1つの企業に限らず、複数の企業とも連携することで、持続性・継続性を向上。



共助の取組を通じて、産業界・教育現場におけるエコシステムを構築



共助の取組は、産業界における人材育成や経営発展に寄与



共助の取組は、教育現場における多様な学びの充実や教員支援に寄与

子どもたちの 多様な学びの 充実



教師の 業務負担軽減 ・ 質的向上

探究的な学び

- ・ 企業課題・実社会データを取り入れた演習により、地域課題への理解向上・社会参画意識の醸成
- ・ 企業の出前授業実施により、最新技術への興味喚起・課題解決力向上

キャリアに関する学び

- ・ 産業界の専門家によるキャリア講話により、多様な職業観の形成
- ・ オンラインでの企業交流により、遠隔地でもキャリア情報収集機会の担保
- ・ 企業のインターンシップ参加により、実務体験の強化

業務負担軽減

- ・ 授業の一部について、外部人材との連携を可能にする仕組みを整えること等により準備負担の削減
- ・ 企業からの専門員等の配置により、専門性が求められる授業の準備負担軽減

質的向上

- ・ 企業と連携した教員研修の実施により、産業動向の知見の向上・マネジメントスキル等の強化
- ・ 特別免許状制度等の活用により、多様な知見をもつ教員の配置

多様な学びの充実に向けた課題と対応策の例



産業界における課題

(企業・団体)

多様な学びの充実のため、
「共助」の推進により
産業界・教育現場双方に効果が
もたらされる仕組みの構築

教育現場における課題

(自治体・教育委員会・学校)



教育関与への意欲と相談先の不足

(1) 教育への関心が関与・貢献につながりにくい

教育現場を理解する機会が少なく、関心はあっても具体的な取組に繋がらない。

<対応策の例>

- ・ 教育への関与がマーケティング・人事戦略・事業開発等にもたらす効果の周知
- ・ 教育との連携に積極的な企業の取組の表彰

(2) 教育ニーズに合致するコンテンツがわからない

自社の技術やノウハウが、児童・生徒の学びに役立つ材料となるか否か、判断がつかない。

<対応策の例>

- ・ 学習コンテンツとなり得る企業の魅力発信のための相談体制の整備

(3) マッチング機会が不足している

協働に前向きな教育現場が分からず、連携先選定が難しい。

<対応策の例>

- ・ 産学連携に積極的な自治体・学校をリスト化・公表

制度的制約とノウハウの不足

(1) 財政・制度的制約ゆえに踏み出せない

限られた予算と制度的制約のため余裕がない。

<対応策の例>

- ・ 産学連携の取組に対して一定の予算を配分・確保
- ・ 公的財源以外（企業からの寄付等）の資金を活用した先行事例を周知・後続事例の組成

(2) 新たな取り組みに対するハードルが高い

現場の教員の負担増につながるとの懸念から忌避される。

<対応策の例>

- ・ 現場負担を抑えた先行事例の収集・取組ノウハウの横展開

(3) 連携等を担う人材・マッチング機能が不足している

どの企業がどのような学習コンテンツを提供してくれるかわからず、相談を始めることが難しい。

<対応策の例>

- ・ 企業への相談方法について、教育現場に助言する機能の整備
- ・ 教育現場と企業の相談機会の設定

共助推進のために必要な施策に関する教育現場・産業界の意見



某市前教育長

- まずは**コーディネーターがものすごく必要**。コーディネーターが準備できれば、ヒト・モノ・カネのマッチングは力量で回る。全国500人程度を目標に進めていけないか。

- 教育現場は**必要なものを言語化するところが課題**。トップダウンでニーズを募集しても意見が出てこないため、そういった**伴走者が先生レベルで必要**。マーケットインの調整ができるよになると理想。



某市教育長



某市教育センター長

- コーディネーター人材の育成が急務**。能力の高いコーディネーターがいれば、自力で連携可能。教委のブロックに合わないためにも、教育委員会に配置することが重要。
- 企業側がリソースを提供する際、なぜxx市なのかという社内説明が難しい。コーディネーターの役割として**企業側に説明するための伴走支援**もあり得るのではないか。

- 企業側と教育側の思想のギャップは大きく、マッチングは容易ではない。**突然自治体に話を入れても外部者扱いされてしまうため、地域の人だったり、コーディネートしてくれる人材は必要**。



電機メーカー
(教育連携担当者)



文部科学省
(初等中等教育担当者)

- 特別非常勤講師や出前授業の需要は学校現場にもある。しかし**学校現場は誰に相談すればいいかわからない**。地域側も学校現場側も**マッチングに悩みを抱えている**。

コーディネーターが有効な解決策となりうるという意見を受け、令和7年夏に企業・自治体関係者等をお招きし全3回の勉強会を行った。

	第1回: コーディネーターの定義①	第2回: コーディネーターの定義②	第3回: コーディネーターの 獲得・育成・派遣方法
内容	<ul style="list-style-type: none">共助および共助のコーディネーターの必要性について学校・自治体と企業を結ぶ共助のコーディネーターに求められる業務はなにか<ul style="list-style-type: none">マッチングされるべき対象は何かマッチングプロセスにおけるコーディネーターの役割は何か	<ul style="list-style-type: none">学校・自治体と企業を結ぶ共助のコーディネーターに求められる業務は何か【第一回の結果のまとめ】上記業務を推進できるようなコーディネーターの要件・人物像はどのようなものか	<ul style="list-style-type: none">共助のコーディネーターの成り手はどのような人材かどのような獲得・育成プロセスが必要か共助のコーディネーターの理想的な配置は何か
形式	<ul style="list-style-type: none">7月3日(木) 15:30-対面2.5時間	<ul style="list-style-type: none">8月7日(木) 13:30-オンライン1.5時間	<ul style="list-style-type: none">8月29日(金) 10:00-オンライン1.5時間

勉強会サマリ（１／２）

役割

- ・ **コーディネーターの役割は、マネジメントとコーディネートが中心**
 - ・ コーディネーターは単なるマッチング実施者ではなく、活動全体に伴走する存在
 - ・ ニーズの掘り起こしから実施、意義の振り返りまでを一貫して支える
- ・ **関わる対象に応じて、役割や必要となる専門性は変わってくる**
 - ・ 活動の軸足をどこに置くか（企業側に立つか、学校・自治体側に立つか）、校種、関わるテーマ（探究や学校改革）など
- ・ **地域や自治体の置かれている状況や意欲度合いを踏まえ、取り組む順序を変える必要もある**
 - ・ 地域・自治体の環境整備度合い（ビジョンが存在するか、人的体制が整っているか等）、各学校の意欲度合いを踏まえアプローチを柔軟に変える

人物像

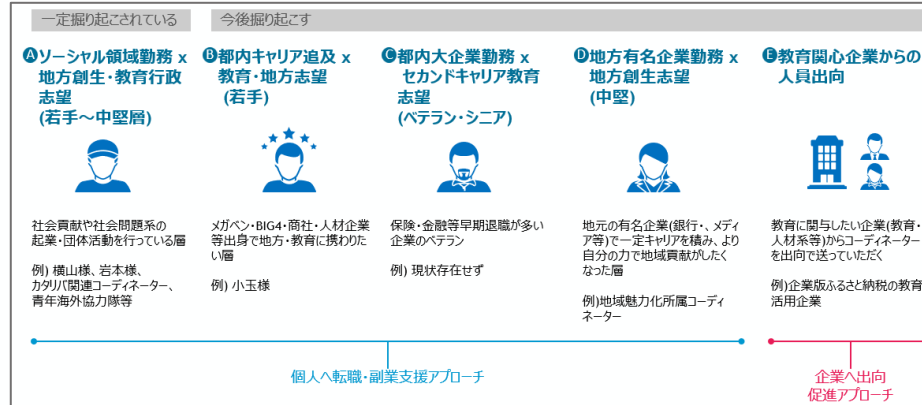
- ・ **基本的な資質としては、柔軟性や素直さ、曖昧性耐性が重要**
 - ・ 柔軟性があり、新しい環境や状況に適応できること
 - ・ 素直でありつつ、自ら考え行動できる姿勢を持つこと
 - ・ 曖昧な状況に耐え、答えがない中でも前に進めること
- ・ **備えるべき力としては、対人・調整能力やリーダーシップ力が特に重要**
 - ・ 対人・調整能力：マルチステークホルダーの間で偏らず話を聞けること、板挟みの状況でも折れずに調整を続けられる強さを持つこと、相手に応じて言葉や伝え方を変えられる翻訳力を持つこと
 - ・ リーダーシップ力：単なる調整役に留まらず議論を前に進められること、キーパーソンを見極め合意形成を促せること
- ・ **経験として必須なものはないが、越境経験や調整業務の経験があると即戦力になりやすい**
 - ・ 教育現場での経験は必須ではなく、後付けで習得可能
 - ・ 留学、NPO、海外協力隊などの越境経験や、企業内で複数部署と調整してきた経験もコーディネーターの役割に活かしやすいか

勉強会サマリ (2/2)

輩出方法

獲得

- ・ コーディネーター候補者のペルソナとしては、下記の5つが一案



- ・ Eの企業出向の場合は、若手は転職リスクがあるためシニア層を中心としつつ、インセンティブ設計やコスト面での配慮が必要
- ・ Bの若手層獲得の場合は、社会人になった後のキャリアだけではなく、大学時代のインターン先や学生団体の所属等の情報も把握できると良い

- ・ 転職エージェントを公的に関与させ、早期から認知を高めることが有効か

育成

- ・ 即戦力となるコーディネーターを育成するためには、仮説検証型の実地研修を通じて育成するのも有効か
 - ・ コーディネート業務を通じて何が実現したいのか、どうすればコーディネーターとしてワークするのかの仮説を立て、実地研修の中で検証するという、探究的な進め方がよいのではないか
- ・ 実効性のある認定制度を設計することも、コーディネーター拡大には有効か

配置

- ・ バイネームで自治体と議論をすすめ、モデルケースを作ることが重要ではないか
 - ・ 初年度は受け入れ自治体が多くない可能性もあるため、まずは実施理由が明確(リーディング自治体になりたい、人口減少で学校・地域魅力化が急務等)な自治体から連携
- ・ 自治体の規模やモチベーションで類型化して配置を検討することも有効か
- ・ スキルだけでなく、相性を重視したマッチングを行うことが重要

勉強会を踏まえたコーディネーターの役割案



※ 本資料において、「産業界」は企業等や経済団体、「教育現場」は教育委員会を含めた自治体及び学校を意味することとする。

第1回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:15 開会挨拶・委員紹介（15分）
2. 10:15-10:20 研究会の趣旨説明（5分）
3. 10:20-10:30 事務局説明（10分）
- 4. 10:30-11:00 ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）**
5. 11:00-11:55 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
6. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

ゲストスピーカーによるプレゼン（各10分程度）

- 井上 浄（株式会社リバネス 代表取締役社長CCO）
- 石田 芳生（岡山県高梁市 市長）
- 高橋 洋平（鎌倉市教育委員会 教育長）

第1回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:15 開会挨拶・委員紹介（15分）
2. 10:15-10:20 研究会の趣旨説明（5分）
3. 10:20-10:30 事務局説明（10分）
4. 10:30-11:00 ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
5. **11:00-11:55 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む**
6. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

共助推進のために

- ① どのような施策が考えられるか。
- ② コーディネーターは有効な施策になりうるか。その場合、どのようにコーディネーターを活用していくべきか。

第1回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:15 開会挨拶・委員紹介（15分）
2. 10:15-10:20 研究会の趣旨説明（5分）
3. 10:20-10:30 事務局説明（10分）
4. 10:30-11:00 ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
5. 11:00-11:55 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
6. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

研究会の各回の位置づけ

第1回： 共助推進のための施策

共助推進のためにどのような施策が有効か議論を行う

主な意見交換内容

共助推進のために、

1. どのような施策が有効か
2. コーディネーターは有効な施策となりうるか

- 1月15日（木）10:00-12:00
- オンライン

第2回： 共助推進のための手法

有効な施策を実行するためにどのような道筋を描くべきか議論を行う

主な意見交換内容

検討中

- 2月中（予定）
- オンライン

第3回研究会（総括・まとめ）

第1・2回研究会での議論を踏まえて成果物を取りまとめる

主な意見交換内容

検討中

- 3月中（予定）
- ハイブリッド（対面&オンライン）